

授業科目 相談援助演習 I

【担当教員名】 圓山 里子		対象学年	2	対象学科	社会
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：G10】 ソーシャルワーク実践の基礎となる視点と技術を学ぶとともに、対象者理解の視点を修得する。学生による主体的なプレゼンテーション、ディスカッション、ロールプレイなどを通じて実際の援助場面をイメージしながら、思考力・共感力などを高めていく。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1 自己理解や他者理解を深める。 2 コミュニケーションの能力を高める。 3 ソーシャルワーク実践の基礎となる対話技術を習得する。 4 対象者（クライアント）理解の視点について学ぶ。 5 ソーシャルワーカーが備えているべき観察力、理解力、分析・判断力、応用力、計画・企画力などについて考える。					
回数	授業計画・学習の主題	SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	オリエンテーション		授業予定及びクラスの確認 ほか		
2	自己理解・他者理解 1		自分から見た私 他者から見た私 を考える ほか		
3	自己理解・他者理解 2		自己がどのような「関係」の中におかれているか理解する ほか		
4	自他の価値観 1		自己の価値観を他者に伝え、異なる価値観と出会う ほか		
5	自他の価値観 2		自他それぞれの価値観の違いを考える、多様な背景を理解する ほか		
6	個人の価値観と専門職の価値		個人の価値観と専門職の価値の相違を理解する ほか		
7	専門職の価値		倫理綱領等、社会福祉専門職が基盤とする価値を学ぶ ほか		
8	ソーシャルワーカーの仕事ぶり		事例や視聴覚教材等を通じて社会福祉専門職の仕事について具体的なイメージをもつ ほか		
9	いろいろな姿勢・態度・距離		実習場面での利用者等に向かい合う態度、姿勢や距離・位置について体験的に学習する ほか		
10	非言語コミュニケーション		非言語コミュニケーションの特色や重要性について体験的に学習する ほか		
11	基本的応答技法 1		繰り返し、明確化、要約等の基本的応答技法を体験的に学習する ほか		
12	基本的応答技法 2		共感、質問等の基本的応答技法を体験的に学習する ほか		
13	記録 1		事象の観察記録の作成と相互評価を通して、記録を書く技術の基礎を養う ほか		
14	記録 2		実習日誌に準じた書式を用い、相互評価を通して、記録を書く技術の基礎を養う ほか		
15	まとめ		考察 振り返り 自己課題の考察		
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		ワークブック 社会福祉援助技術演習〈1〉対人援助の基礎	山田 容	ミネルヴァ書房	2003・1,700円＋税
		実習生のための対人援助技術	社会福祉実習研究会編集	中央法規	2006・2,200円＋税
		対人援助のための相談面接技術	岩間伸之	中央法規	2008・1,800円
		対人援助とコミュニケーション 第2版	諏訪茂樹	中央法規	2010・1,900円＋税・図書館・開架に初版がある
		ソーシャルワーク演習ワークブック	ソーシャルワーク演習教材開発研究会	みらい	2008・2,200円＋税
その他の資料					
【評価方法】 出席状況、参加態度、取り組みの成果等		【履修上の留意点】 ○継続的な取り組みなので、特に事情の無い限り、欠席は認められない。 ○演習での配布資料等が散逸しないよう留意すること（各自でファイルを用意する等）。			